

令和5年度 北斗市立小・中学校 全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

この調査は、文部科学省が全国の児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しています。しかし、調査は実施教科が小学校・中学校ともに限られた教科のみで、学習指導要領の内容全てを網羅するものではありません。したがって、結果は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部分であることや学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要があります。この結果のみで、学校や児童生徒を評価できるものではありません。

また、北斗市教育委員会では、例年同様、市全体及び中規模・大規模の小中学校の調査結果のみ公表いたします。今後も、北斗市の学校は、保護者、地域と一体となって学力向上や学習環境の整備に取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

北斗市教育委員会

調査の概要

○ 調査実施日

令和5年4月18日(火)
※英語「話すこと」調査は4月27日(木)～5月19日(金)

1 調査の対象

- ・小学校第6学年の児童
- ・中学校第3学年の生徒

2 教科に関する調査

- ・小学校：国語・算数
- ・中学校：国語・数学・英語

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようなっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
※①と②を一体的に問う調査問題

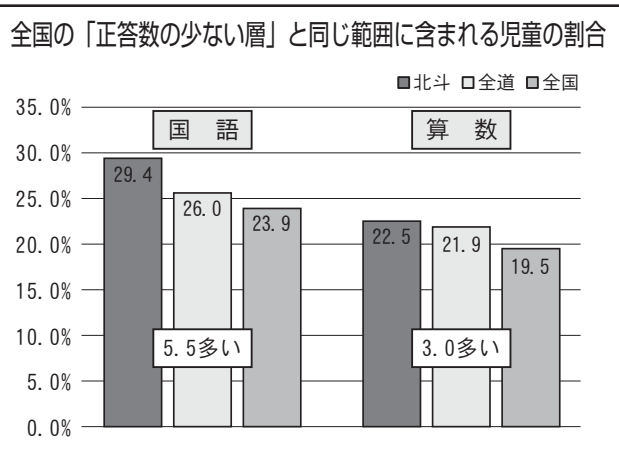
3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ①児童生徒に対する調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- ②学校に対する調査
 - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

小学校

1 教科に関する調査

○国語・算数ともに、全国・全道平均を下回り、昨年より差が広がりました。



北斗市内小学校各教科の平均正答率 (%)

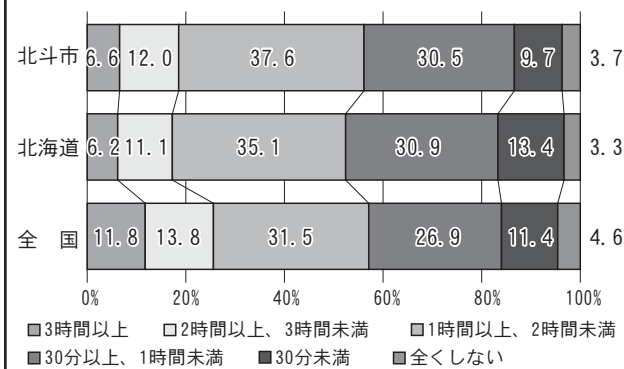
6年生 351人

	国語	算数	合計
北 斗 市	64	60	124
北 海 道	66	61	127
全 国	67.2	62.5	129.7
道との差	-2	-1	-3
全国との差	-3.2	-2.5	-5.7

※北斗市・北海道の平均正答率は国が公表した整数値

○問題の分類別正答率でも、全国・全道を下回りました。

①学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

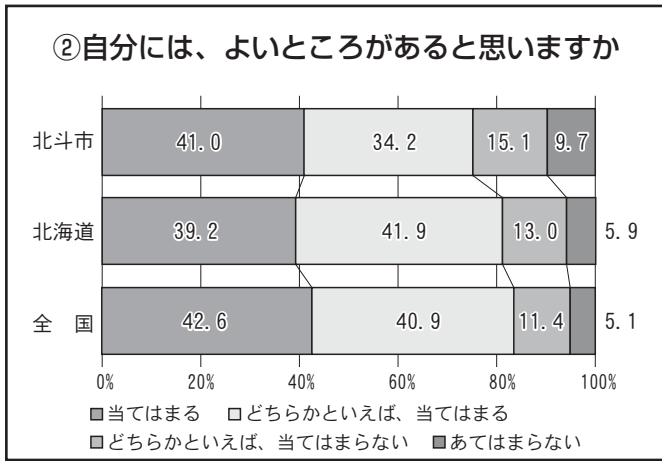


○問題を下回り、家庭学習の時間はある程度確保されています。

2 児童への質問紙調査

①平日、1時間以上、家庭学習をしている児童の割合は、全道を上回り、ほぼ全国平均並みです。30分未満または、全くしないと回答した児童は、全道・全国を下回り、家庭学習の時間はある程度確保されています。

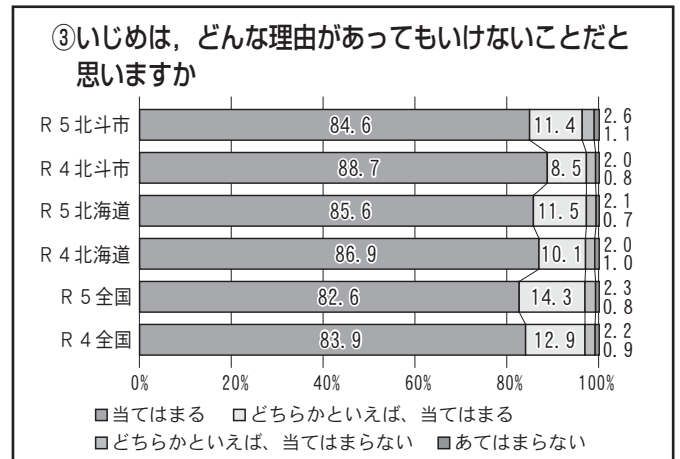
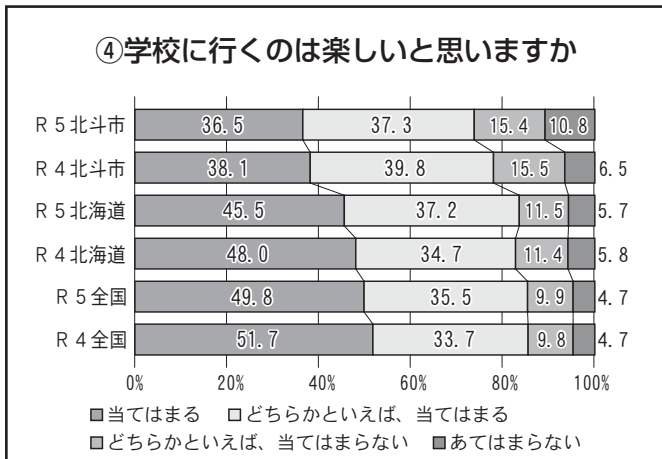
○北斗市では、必要最低限の学力を全ての子どもたちに身に付けさせるため、「正答数の少ない層」の底上げを重点とし、その結果として、各教科の平均正答率が全国以上になることを目指しています。「正答数の少ない層」の割合は、少ないほど望ましいこととなります。今年度、小学校では、「正答数の少ない層」が、国語で5・5割、算数で3・0割、全国より多くなり、目標を達成できませんでした。



② 「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」と答えている児童の割合が、全道を上回っています。しかし、24・8%の児童が否定的な回答で、全国・全道を上回っています。

③ 過去の調査では、はじめは絶対いけないう意識は、全道・全国より高いものがありました。しかし、今年度は、全道を下回りました。また、否定的な回答は、全道・全国を上回りました。以前は見られなかった結果です。

④ コロナ禍の一昨年は、楽しいと感じる児童の割合が大きく減りましたが、今年、多少回復しました。しかし、今年度また、楽しいと感じる児童の割合は減少しました。否定的な回答も多く、改善しなければならぬ課題です。



- ② 児童の学習意欲向上のために
- ① わかりやすい授業のために
- ・音読の時間を設定する。
 - ・教科担任制や少人数指導などにより、授業の質の向上を図る。

【課題解決・改善の取組】

小学校4校の平均正答率 (%)

	国語	算数	合計
A	63	57	120
B	67	65	132
C	63	58	121
D	64	59	123

※各校の正答率は国が公表した整数値

- ⑥ その他の取組
- ・家庭学習の具体例を提示するなど、自学自習に向けて指導を行う。
 - ・ネットドリルを活用する。
 - ・ICT機器を活用して
 - ・ICTを活用し、学習の記録やまとめを行う。

⑤ ICT機器を活用して

- ・子どもたちに、「やりきる」活動を保障する。
- ・「学習のきまりチェックシート」等の取組を児童が主体的に考え、実行できるように工夫する。

- ・「振り返り」や「交流の時間・場」を確保する。
- ・表現力を向上させるため、「振り返り」や「振り返り」の時間を確保し、学びの深化に努める。

- ④ 児童が主体的・対話的で深い学びに向かうために
- ・学んだことを自分の言葉でまとめたり、人に教えたりするなど、アウトプットを意識した発問や課題の設定を行う。
 - ・表現力を向上させるため、「振り返り」や「振り返り」の時間を確保し、学びの深化に努める。

※その他、「朝食を毎日食べている児童の割合」は、年々下がっており、北斗市73・5%（昨年77・7%）、北海道80・7%（昨年81・5%）、全国83・7%（昨年84・9%）と全道、全国を下回っております。

また、昨年度まで、あったゲームやスマホなどの時間に関する調査は、今年度は、ありませんでした。

3 学力向上の取組

○「1教科に関する調査」「2児童への質問紙調査」の結果からわかるように、今回の調査では多くの課題が明らかになりました。市内各小学校では、結果を分析し、実態に合わせた改善に取り組んでいます。

- ③ 学習内容の習得・定着のために
- ・条件に合わせたり、資料を活用して、考えをまとめたりする力を培うため、全校で条件付き作文に取り組む。
 - ・「めあて」「まとめ」だけではなく、「振り返り」の時間を確保し、学びの深化に努める。
 - ・児童が主体的・対話的で深い学びに向かうために
 - ・学んだことを自分の言葉でまとめたり、人に教えたりするなど、アウトプットを意識した発問や課題の設定を行う。
 - ・表現力を向上させるため、「振り返り」や「振り返り」の時間を確保し、学びの深化に努める。
 - ・「学習のきまりチェックシート」等の取組を児童が主体的に考え、実行できるように工夫する。
 - ・子どもたちに、「やりきる」活動を保障する。
 - ・「学習のきまりチェックシート」等の取組を児童が主体的に考え、実行できるように工夫する。

中 学 校

1 教科に関する調査

○国語・数学・英語の全教科で、全国・全道平均を下回りました。国語・数学で昨年度より差が広がり、英語で前回実施の平成31（令和元）年度より差が縮まりました。
○問題の分類別正答率でも、全国・全道を下回りました。

北斗市内中学校各教科の平均正答率（%）

3年生 379人

	国語	数学	英語	合計
北 斗 市	68	47	43	158
北 海 道	69	49	44	162
全 国	69.8	51.0	45.6	166.4
道との差	-1	-2	-1	-4
全国との差	-1.8	-4.0	-2.6	-8.4

※北斗市・北海道の平均正答率は国が公表した整数値

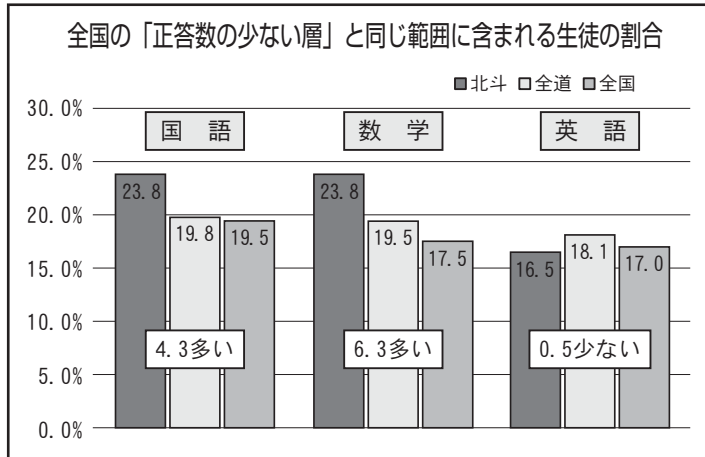
○中学校でも、「正答数の少ない層」を減らす努力をしています。
今年度は、国語で4・3割、数学で6・3割、全国より多くなりましたが、英語で0・5割少なくなりました。

平均正答率が、全国を下回った英語で、「正答数の少ない層」が全国より少なかったということは、英語に関しては、ある程度、底上げが図られたと言えます。

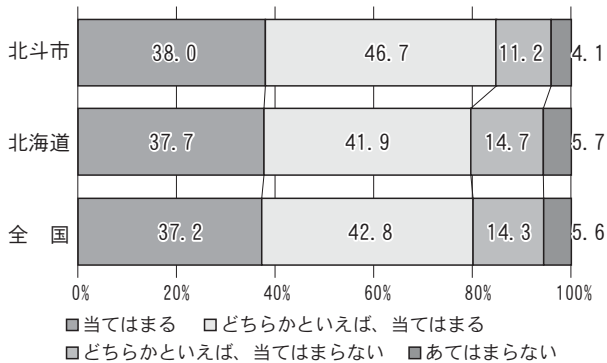
2 生徒への質問紙調査

①1時間以上、家庭学習をしている生徒の割合は、全道を上回り、ほぼ全国平均並みです。30分未満または、全くしないと回答した生徒は、全道を下回り、家庭学習の時間はある程度確保されています。

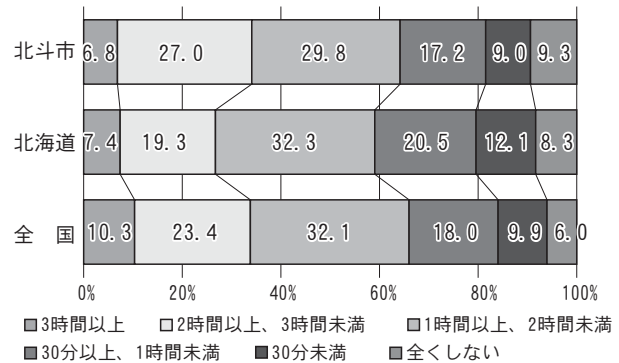
②「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている生徒の割合が、全国・全道を上回っています。



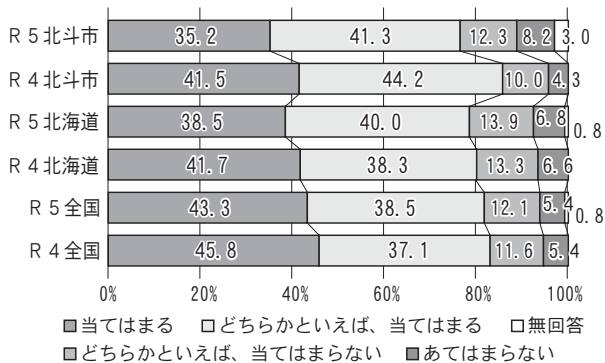
②自分には、よいところがあると思いますか



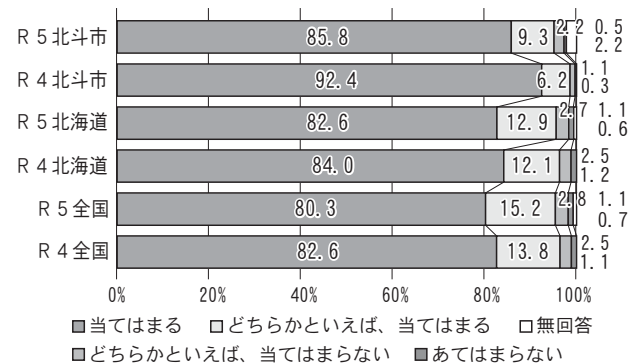
①学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



④学校に行くのは楽しいと思いますか



③いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



③過去の調査では、いじめは絶対いけ
ないという意識は、小学生と同様、非
常に高いものがありました。今年も、
「当てはまる」と答えた生徒の割合は、
全道・全国を上回ったものの、北斗市
としては、昨年度より6・6_{ポイント}も下
りました。

④小学生同様、コロナ禍の一昨年は、楽
しいと感じる生徒の割合は、大きく減
少しましたが、昨年、多少回復しまし
た。しかし、今年度また、楽しいと感
じる生徒の割合は、減少しました。否
定的な回答も多く、改善していかね
ればならない課題です。

※その他、「朝食を毎日食べている生徒
の割合」は、年々下がっており、北斗
市73・0%（昨年77・8%）、北海道
75・4%（昨年77・4%）、全国78・
6%（昨年79・9%）と全道、全国を
下回っております。

小学校と同様、昨年度まであった、
ゲームやスマホなどの時間に関する調
査は、今年度は、ありませんでした。

3 学力向上の取組

○小学校同様、中学校でも明らかにな
った課題を解決するため、結果を分析し、
改善に取り組んでいます。

【課題解決・改善の取組】

①わかりやすい授業のために
・習熟度に応じた少人数によるコース分
けを行い、理解度に合わせた授業を展
開する。

・3K（考える・会話する・行動する）
授業を行う。

中学校3校の平均正答率（%）

	国語	数学	英語	合計
A	66	47	40	153
B	65	43	39	147
C	73	51	50	174

※各校の正答率は国が公表した整数値

・授業の中に「考える場」「判断する
場」「行動する場」を設定して取り組
む。

・生徒による授業評価（アンケート）を
実施する。

・問題の状況が理解できているかを細か
く確認、説明する。

・全国学力・学習状況調査の結果を踏ま
え、「授業アイデア例」を活用する。

②生徒の学習意欲向上のために
・シラバス（計画と振り返り）を作成・
活用し、「目標」と「何ができるよう
になるか」を生徒と共有しながら見通
しを持って学習活動を進めている。

・学校と家庭の学習をつなげる活動を毎
日行う。

③学習内容の習得・定着のために
・記述問題について答え方・書き方の練
習を繰り返し行い、生徒同士の教え合
いの場も設ける。

・記述での答え方に慣れるため、さまざ
まな条件のもとに文章を書く機会を設
ける。

・課題、まとめ、振り返りを明確にし、
学習の定着を図る。

・基礎的・基本的な知識・技能の定着を
図るため、T・Tによる授業を実施し
ている。

・基礎・基本の定着のため、全国学力・
学習状況調査問題の振り返り、解き直
しを実施している。

・問題演習の際に、教え合い、学び合
いを入れ、定着に結びつける。

・英語で、語順定着、文法の確認、書く
演習のためにペア・グループ、発表活
動を取り入れている。

④生徒が主体的・対話的で深い学びに向
かうために
・学んだことを自分の言葉でまとめたり、
人に教えたりするなど、アウトプット
を意識した発問や課題の設定を行う。

⑤ICT機器を活用して
・ICT機器を活用して、多様な考え方
を共有する授業を行う。

・試験前の生活習慣について、今までは
用紙（生活リズムチェックシート）に
記入していたが、ゲーグルフォームに
入力し、把握と分析を行えるよう、改
訂を進めている。

⑥その他の取組
・家庭学習の具体例を提示するなど、自
学学習に向けて各学年に応じた指導を
行う。

・日常的に英語に慣れさせるためオール
イングリッシュ的要素を取り入れた授
業を行う。

・学習環境の整備を行う。

子どもたちの健やかな成長のために

○今年度の調査で、北斗市の子どもた
ちは、全ての教科で、全国・全道平均
を下回りました。これは、小学校で平
成24年以来、中学校で平成26年以来的の
ことです。小中がそろって下回るのは、
この全国調査が始まって2年目の平成
20年以來となります。各学校では、こ
うした調査結果を重く受けとめ、実施
学年の学力の保障と学校全体の学力向
上に向けて取り組んでいます。

・質問紙調査で、「先生は、授業やテ
ストで間違えたところや、理解してい
ないところについて、分かるまで教え
てくれていると思いますか」という質
問に、「当てはまる」と答えている児
童生徒の割合が、全国・全道を上回っ
ています。学校は、学力の向上のため、
この姿勢を維持してまいります。

○小学生は、「友達関係に満足してい
る」「国語の勉強は好き」という回答
が、全国・全道を上回っています。中
学生は、「人が困っているときは、進
んで助けている」「人の役に立つ人間
になりたい」「地域や社会をよくする
ために何かしてみたい」という回答が、
全国・全道を上回っています。このよ
うに、北斗市の子どもたちは、心優し
く、前向きにがんばっています。

○そんな北斗市の子どもたちを心豊か
に育てていくため、各ご家庭におかれ
ましては、子どもたちが安心できる環
境を、市民の皆さまにおかれましては、
温かい励ましをお願いいたします。

（教育委員会 指導室）